

# 子どものうたの音楽分析 —保育者養成校のソルフェージュ指導の視点から—

## Music Analysis of Children's Song From the Viewpoint of Solfege's Guidance at a Nursery School

吉田 直子

Naoko Yoshida

In this paper, in order to study the teaching methods and teaching materials that students who aspire to take care of children can develop without being separated from their music activities, we analyzed the musical elements of children's songs, such as hand-play songs and "Warabe-uta", and seasonal songs, which are used in childcare.

As a result, the range and pitch of the songs were almost the same between hand-play songs and seasonal songs, while the range and pitch of "Warabe-uta" were narrower than the other two. The rhythms used in the songs were not so different among the hand-play songs, "Warabe-uta" and seasonal songs. The knowledge of basic notation and music symbols was included in the seasonal songs. By being aware of the characteristics of the music elements of these songs, it is thought that the foundation of music theory and solfege, which is the basis of musicality, can be taught comprehensively through practical skills.

### I はじめに 課題意識

本論は、弾き歌いや伴奏づけなど保育者養成校で指導されている手遊び歌、わらべうた、季節の歌等の子どものうたには、どのような音域、音程やリズム、強弱・発想記号などの音楽要素が含まれるのかについて分析する。

筆者は近年保育者養成校入学時まで特別な音楽経験が無い学生が増加していることから、成人初心者の音楽指導法について研究を続けている。これまでに、幼児教育専攻の学生を対象としたメロディの歌唱に関する調査結果から<sup>1</sup>、音程を正しく歌唱できない被験者は、音階や調性感等西洋音楽の基礎に則ってうたのメロディを捉えていないのではないかと指摘した<sup>2</sup>。また、リズムを正しく表現できない初心者は、うたのメロディのリズムを規則正しい「拍節」ではなく、「フレーズ」に基づいて聴いている可能性にも言及した<sup>3</sup>。これらの仮説を基に、うたのメロディの音程やリズムを正しく表現できるためには、「音階・調性感・拍感」等の西洋音楽の基礎を身につける必要があると述べた。保育者養成の観点から見ると、保育者が適切に子どもの音楽活動を支援するためには、子どもの発達段階を理解すると共に、子どものうたの基本的な音楽要素を正しく把握し、音楽的に表現できることが重要となる。

従来、保育者養成校では、西洋音楽の基礎知識は「音楽理論」、リズム感や音感の陶冶は「ソルフェージュ」、ピアノや歌の表現技術は「実技科目」で指導されてきた。その際、一般的には音楽理論、ソルフェージュ、実技科目は各々専用の教材で指導される。しかし、この方法では、各種の音楽基礎教育科目（音楽理論、ソルフェージュ）と、実技科目（ピアノ・歌・弾き歌い・伴奏づけ）で科目や教材が分離しているため、音楽理論やソルフェージュが実際の保育にどのよ

---

\* 帝塚山大学 教育学部 講師

うに関連するのか学びの当事者である学生に繋がりが実感されにくい。一方、国内外の音楽大学等では近年、価値が認められる実際の音楽作品を教材にして、「聴く」・「模倣する」・「表現する」などの音楽活動を通じて聴覚や理解力の向上を図る、新しいタイプの音楽基礎教育が注目されている。フォルマシオン・ミュージカル<sup>4</sup>、〈音楽家の耳〉トレーニング<sup>56</sup>等は、従来の専門家養成における音楽基礎教育が過度に高度な聴覚訓練や読み書きに偏り、実際の音楽活動（演奏）と乖離しているのではないかという反省に基づいて生まれた、音楽専門教育における新しい音楽基礎教育システムである。

このような音楽基礎教育システムの考え方は保育者養成教育ではあまり採り入れられていない。長崎結美は保育者養成課程におけるソルフェージュ指導について、フォルマシオン・ミュージカルの視点から子どものうたを取り入れる指導法を具体的に提案する。その一方で、問題点を考察し、教材選定や問題作成、指導範囲の決定など教師の裁量が大きく、負担が多いことを原因として挙げて<sup>7</sup>、「フォルマシオン・ミュージカルの考え方が急速に日本で浸透していくことは、現状から考えて難しい」<sup>8</sup>と述べる。しかし、長崎が「音楽性の基盤となるソルフェージュ」<sup>9</sup>を、「保育者を目指す学生たちにとって身近な楽曲を用いながら、実際の演奏に結びつく音楽の基礎知識を総合的に指導して行くことは可能である」<sup>10</sup>というように、筆者も、初歩の段階から保育者が子どものうたの表現技術を習得する過程で、うたに含まれる音楽要素を意識化して学ぶことは、「音楽性の基盤となるソルフェージュ」の効果的な指導法だと考えている。

そこで本論では、このような考え方を取り入れ、保育を志す学生が音楽活動と乖離せずに基礎を培える指導法と教材を検討するために、保育に用いられる子どものうたの中から、手遊びうたとわらべうた、季節のうたの音楽要素を分析したい。

## Ⅱ 子どものうたに含まれるソルフェージュ的要素

本章では、筆者が保育者養成課程の授業で扱うことが多い手遊びうた、わらべうた、季節のうたのメロディの使用音域と音程、リズムに焦点をあてる。うたのメロディの使用音は階名で示す。

### 1. うたのメロディの使用音と音程

#### ①手遊びうた

手遊びうたに含まれる音を階名で列挙し、メロディの使用音域・音程を示した【表1】。これらのうたは、西洋のうたに日本語の歌詞と手遊びをつけた替えうたが多いため、西洋音楽の音階と和声に則って作られている。【表1】にあるように、メロディに使用される音は、《キャベツのなかから》<sup>11</sup>が下のソとドレミソ、《さかながはねて》<sup>12</sup>がドレミファソの5音である。6音を使用するうたは、ドレミファソラを使用する《あたまたたひざポン》<sup>13</sup>、《コロコロたまご》<sup>14</sup>、《むすんでひらいて》<sup>15</sup>、ソとドレミファソを使用する《いとまき》<sup>16</sup>、ソラシドレミを使用する《はじまるよ、はじまるよ》<sup>17</sup>がある。7音を使ううたは、ソラシドレミファを使った《やまごやいっけん》<sup>18</sup>（替え歌《大きくなったらなんになる》）、《しあわせならてをたたこう》<sup>19</sup>、ラシドレミファソを使用する《とんとんとんとんひげじいさん》<sup>20</sup>、ソドレミファソラを使用する《グーチョコキパーでなにつくろう》<sup>21</sup>、《やおやのお店》<sup>22</sup>、ソラシドレミソを使用する《5つのメロンパン》<sup>23</sup>、ソシドレミファソを使用する《くいしんぼゴリラのうた》<sup>24</sup>、《ピクニック》<sup>25</sup>、ドレミファソラドを使用する《手を叩きましょう》<sup>26</sup>、シドレミファソラを使用する《こぶたぬきつねこ》<sup>27</sup>などである。《アルプス一万尺》<sup>28</sup>は9音を使用する。半音を使用しないうたは、《キャベツの中から》のみである。今日親しまれている手遊び歌は半音も含み、西洋音階の音がほぼ偏りなく使用されている。8、9度の幅広い音域のうたも多い。

表1 うたのメロディの使用音域と音程―①手遊びうた

うた	メロディの使用音	音域	音程
あたまかたひざぼん	ドレミファソラ	6	2,3,4度
アルプス一万尺	ミファソラシドレミファ	9	2,3,4,5度
糸まき	ソ ドレミファソ	8	2,3,4,5度
大きくなったらなんになる	ソラシドレミファ	7	2,4,5,6度
キャベツの中から	ソ ドレミ ソ	8	2,4度
食いしん坊のゴリラ	ソ シドレミファソ	8	2,4,5,6度
グーチョキパーでなにつくろう	ソ ドレミファソラ	9	2,4度
こぶためきつねこ	シドレミファソラ	7	2,3,5度
コロコロたまご	ドレミファソラ	6	2,3度
ごんべさんのあかちゃん	ミファソラシドレミ	8	2,3,4度
さかながはねて	ドレミファソ	5	2,3度
しあわせなら手をたたこう	ソラシドレミファ	7	2,3,4,5,6度
手をたたきましよう	ドレミファソラ ド	8	2,3,6度
とんとんとんとんひげじいさん	ラシドレミファソ	7	2度
はじまるよ、はじまるよ	ソラシドレミ	6	2,3,4,5,6度
パン屋に1つのメロンパン	ソラシドレミ ソ	8	2,3,4,6,8度
ピクニック	ソ シドレミファソ	8	2,3,5度
むすんでひらいて	ドレミファソラ	6	2,3,5度
やおやのお店	ソ ドレミファソラ	9	2,3,4, 6度
やまごやいっけん	ソラシドレミファ	7	2,3,4,5,6度

## ②わらべうた

わらべうたは、(日本の)「子どもたちが日常生活の中で遊びながら唱えていたことばや歌が、自然に子どもたちの間で受け継がれ、今日まで伝承されてきたものである」<sup>29</sup>ことから、子どもの生活や遊びの中で伝承される過程で、時代や地域に固有のヴァリエーションが存在する。そのため、各種テキストに掲載された楽譜を基に分析する。下の【表2】に、わらべうたに含まれる音を階名で列挙し、うたに使われる音域と音程を示した。この【表2】にあるように、《あがりめさがりめ》<sup>30</sup>《おせんべ》<sup>31</sup>《お寺のおしょうさん》<sup>32</sup>《たけのこいっぽん》<sup>33</sup>《ちゃちゃつぽちゃつぽ》<sup>34</sup>《なべなべそこぬけ》<sup>35</sup>に含まれる音数は3音であり、5音から9音まで使われていた手遊びうたに比べて、使用される音の数が少なく、音域も狭い。またうたに含まれる音程も、2度から8度まで幅広い音程を含んだ手遊びうたに比べ、2度から4度の音程が中心である。《あんたがたどこさ》に5度が含まれる以外は、全体的に音程も狭いうたが多く、半音は使用されていない。

表2 うたのメロディの使用音域と音程―わらべうた

うた	メロディの使用音	音域	音程
あがりめさがりめ	ミ ソラ	3	2,3度
あんたがたどこさ	ミ ソラシ	4	2,3,5度
おせんべ	ミ ソラ	4	2,3度
おちゃらか	ミ ソラシ	4	2,3度
お寺のおしょうさん	ミ ソラ	3	2,3度
かごめかごめ	ミ ソラシ	4	2,3,4度
げんこつやまの	ミ ソラシ	4	2,3,4度
たけのこいっぽん	ミ ソラ	3	2,3,4度
ちゃちゃつぽちゃつぽ	ミ ソラ	3	2,4度
なべなべそこぬけ	ソラシ	3	2度

### ③季節のうた

四季それぞれの季節のうたのメロディに使用される音域、音程について【表3】にまとめた。ここに挙げられた季節のうたは5度から10度の音域で構成されている。また音程は、2度や3度しか使われていないうたから、5度、6度、8度の広い音程跳躍を含むうたもある。手遊びうたと同様に、幅広い西洋音階の音程に慣れ親しむことができると考えられる。これらのうち、《こいのぼり》<sup>36</sup>、《たなばたさま》<sup>37</sup>、《まつぼっくり》<sup>38</sup>、《もみじ》<sup>39</sup>、《おしょうがつ》<sup>40</sup>、《まめまき》<sup>41</sup>は半音を含まないうたである。

表3 うたのメロディの使用音域と音程—季節のうた

はるのうた 3-5月	メロディの使用音	音域	音程
おはながわらった	<u>ソ</u> ラシドレミファソ	8	2,3,4,5度
こいのぼり	ドレミ ソラ ド	8	2,3,4,8度
チューリップ	ドレミファソラ	6	2,3,5度
ちょうちょう	ドレミファソ	5	2,3度
ぶんぶんぶん	ドレミファソ	5	2,3,4度
めだかのがっこう	ドレミ ソラ ド	8	2,3,4度
<b>なつのうた 6-8月</b>			
あめふりくまのこ	<u>ラ</u> シドレミファソラ ド	10	2,3,4,5,6度
ありさんのおはなし	<u>ソ</u> ラシドレミ ソラ	9	2,3,4,5度
おばけなんてないさ	<u>ソ</u> ラシドレミファソ	8	2,3,4,6度
かたつむり	ドレミファソラ ド	8	2,3,4度
素敵なパパ	<u>シ</u> ドレミファソラシド	9	2,3,4,5,6度
たなばたさま	<u>ソ</u> ラ ドレミ ソ	8	2,3,4度
とけいのうた	ドレミファソラ ド	8	2,3,4,5度
ながぐつマーチ	<u>ソ</u> ドレミファソ	8	2,3,5,8度
<b>あきのうた 9-11月</b>			
大きな栗の木の下で	ドレミファソラシド	8	2,3,4,5度
こおろぎ	ドレミファソラ ド	8	2,3,4,5度
こぎつね	ドレミファソラ ド	8	2,3,5度
どんぐりころころ	ドレミファソラシド	8	2,3,4,5,6度
とんぼのめがね	ドレミ ソラ ド	8	2,3,4度
まっかな秋	<u>ソ</u> ラシドレミファソラ	9	2,3,4,5,6度
まつぼっくり	<u>ソ</u> ラ ドレミ ソ	8	2,3,4,5,6度
虫の声	ド ミ ソラシド	8	2,3,4,5,6度
もみじ	ドレミ ソラ ド	8	2,3,4,8度
焼きいもグーチーパー	ドレミファソラシドレ	9	2,3,4,5,6度
<b>ふゆのうた 12-2月</b>			
嬉しいひなまつり	<u>ラ</u> シドレミファ ラシ	9	2,3,4,8度
おしょうがつ	<u>ソ</u> ラ ドレミ ソ	8	2,3,4,5度
思い出のアルバム	ドレミファソラシドレ	9	2,3,4,5度
ジングルベル	<u>ソ</u> ラシドレミファソラ	9	2,3,4,5,6度
たきび	ドレミファソラ ド	8	2,3,4,6度
まめまき	ドレミ ソラ ド	8	2,3,4度
ゆき	ドレミファソラ	6	2,3,4,6度
ゆきのこぼうず	<u>ソ</u> ドレミファソ	8	2,3,5度



## 2. うたのメロディで使用されるリズム

### ①手遊びうた

次にうたに使用されているリズムに着目する。リズムは、4分音符、4分休符、8分音符、8分休符、2分音符、付点2分音符、付点4分音符、付点8分音符、付点8分音符と16分音符の組み合わせリズム、16分音符、タイ、シンコペーション、複付点4分音符と16分音符の組み合わせリズム、8分音符と16分音符のシンコペーション、付点8分休符、3連符、8分音符と16分音符の組み合わせの17要素を挙げ、それぞれのうたでどのリズム要素が使用されているか、【表4】に示した。黒く塗られた部分がうたに使われていることを示す。選択した20曲の手遊びうたの中では、4分音符と8分音符がどのうたでも多く使われており、次に付点8分音符と16分音符の組み合わせリズムが多く使われていた。

表4 うたのメロディの使用リズム—手遊びうた

うた	4分音符	4分休符	8分音符	8分休符	2分音符	付点2分音符	付点4分音符	付点8分音符	付点8分音符と16分音符	16分音符	タイ	シンコペーション	複付点4分音符と16分音符	8分音符と16分音符のシンコペーション	付点8分休符	3連符	8分音符と16分音符2つ
あたまかたひざぼん																	
アルプス一万尺																	
糸まき																	
大きくなったらなんになる																	
キャベツの中から																	
食いしん坊のゴリラ																	
グーチョキパーでなにつくろう																	
こぶたぬきつねこ																	
コロコロたまご																	
ごんべさんのあかちゃん																	
さかながはねて																	
しあわせなら手をたたこう																	
手をたたきましょう																	
とんとんとんとんひげじいさん																	
はじまるよ、はじまるよ																	
パン屋に1つのメロンパン																	
ピクニック																	
むすんでひらいて																	
やおやのお店																	
やまごやいっけん																	

### ②わらべうた

次に、わらべうたに含まれるリズムに着目する。【表5】に示されているように、わらべうたでも4分音符、4分休符が多く使われ、次に多く使われているのが8分音符である。付点8分音符と16分音符の組み合わせリズムを使ううたが多いのも、手遊びうたのリズムの特徴と目立った違いは見られない。わらべうたは手遊びうたに比べ、使われている音数が少なく、音程の幅も狭いうたが多かったが、リズムに関して特徴的なのは、《あんたがたどこさ》や《お寺のおしょうさん》、《おせんべ》で言葉のリズムに則してメロディが拍子に囚われず自由なことである。わらべうたは、西洋音楽の規則正しい拍子に則ったリズムではなく、日本語の言葉のリズムに沿い柔軟である。

### ③季節のうた

さらに、季節のうたを対象に採りあげて、同様に分析する。手遊びうたやわらべうたと同様の方法で、季節のうたに含まれるリズムを17のリズム要素に分けて示したのが【表6】である。4分音符、4分休符、8分音符は多くのうたに含まれ、付点8分音符と16分音符の組み合わせリ

ズムが次に多くつかわれている点は、わらべうたや手遊びうたと同じである。単純拍子のうたが多いが、《思い出のアルバム》は8分の6拍子である。

表5 うたのメロディの使用リズム—わらべうた

うた	4分音符	4分休符	8分音符	8分休符	2分音符	付点2分音符	付点4分音符	付点8分音符	付点8分音符と16分音符	16分音符4つまたは6つ	タイ	シンコペーション	複付点4分音符と16分音符	8分音符と16分音符のシンコペーション	付点8分休符	3連符	8分音符と16分音符2つ
あがりめさがりめ																	
あんたがたどこさ																	
おせんべ																	
おちゃらか																	
お寺のおしょうさん																	
かごめかごめ																	
げんこつやまの																	
たけのこいっぼん																	
ちゃちゃつぽちゃつぽ																	
なべなべそこぬけ																	

表6 うたのメロディの使用リズム—季節のうた

はるのうた 3-5月	4分音符	4分休符	8分音符	8分休符	2分音符	付点2分音符	付点4分音符	付点8分音符	付点8分音符と16分音符	16分音符4つまたは6つ	タイ	シンコペーション	複付点4分音符と16分音符	8分音符と16分音符のシンコペーション	付点8分休符	3連符	8分音符と16分音符2つ
おはながわらった																	
こいのぼり																	
チューリップ																	
ちょうちょう																	
ぶんぶんぶん																	
めだかのがっこう																	
なつのうた 6-8月																	
あめふりくまのこ																	
ありさんのおはなし																	
おばけなんてないさ																	
かたつむり																	
素敵なパパ																	
たなばたさま																	
とけいのうた																	
ながぐつマーチ																	
あきのうた 9-11月																	
大きな栗の木の下で																	
こおろぎ																	
こぎつね																	
どんぐりころころ																	
とんぼのめがね																	
まっかな秋																	
まつぼっくり																	
虫の声																	
もみじ																	
焼きいもグーチーパー																	
ふゆのうた 12-2月																	
嬉しいひなまつり																	
おしょうがつ																	
思い出のアルバム																	
ジングルベル																	
たきび																	
まめまき																	
ゆき																	
ゆきのこぼろず																	

以上、手遊びうた、わらべうた、季節のうたに含まれるメロディの使用音域、音程とリズムを

調べた結果、手遊びうたと季節のうたは音域が幅広く、音程も2度から8度まで含まれていた。対して、わらべうたは使用音域の幅が狭く、音程もほとんど4度以内であった。またリズム面では、どのうたも4分音符、4分休符、8分音符、付点8分音符と16分音符の組み合わせが多く使われていたが、わらべうたでは、リズムが日本語の言葉に則して柔軟になっていた。

幼児の歌唱教材の音域に関する研究では、足立広美が梅本堯夫、志村洋子、吉富功修、武岡真知子、松原靖子等の研究を基に、「一概にはいえないが、幼児の声域について、3歳から5歳までの歌唱可能声域が、6度～7度となる」<sup>42</sup>と述べている。さらに足立は、明治期から大正期までの子どものうた225曲を調査し、8度、9度の音程が全体の6割近くで、次いで11度であったことを報告し、幼児の声域に適切な音程のうたは10%に過ぎなかったと報告している<sup>43</sup>。なぜそのようにうたの音域が子どもの声域を考慮されていないのかについて、明治・大正期の童謡を作曲した本居長世、広田龍太郎、成田為三、山田耕筰達が、声域に捉われず、芸術性を重視したためであると足立は述べる。季節のうたには、芸術性や子どもの感情や文化を大切に作曲されたうたが多いため、楽譜上にも音楽的表現に対して作曲家の指示が記載されている。そこで次に、季節のうたに含まれる音楽理論的な要素として、音楽記号に注目して分析する。

### Ⅲ. 季節のうたに含まれる音楽理論的要素

季節のうたには、演奏記号、強弱記号、速度記号、発想記号など楽語を含め、表現のための指示が楽譜上に記されている。具体的にどのような音楽記号があるのかをまとめたのが【表7】である<sup>44</sup>。

表7 音楽記号—季節のうた

はるのうた 3-5月	演奏記号	強弱記号	速度記号	発想記号
おはながわらった	リビート、スタッカート	f,mf,mp	メトロノーム記号	
こいのぼり		f,mf,mp,cresc.decresc.アクセント	Allegro、メトロノーム記号	
チューリップ	プレス	f,mp,decresc.	メトロノーム記号	
ちょうちょう	プレス	mf,mp,cresc.		
ぶんぶんぶん	スラー	mf,mp		
めだかのがっこう	リビート、プレス、スタッカート	mf,mp,p,pp,cresc.		
なつのうた 6-8月				
あめふりくまのこ	リビート、スラー、メソスタッカート、テヌート、タイ	mf,mp,cresc.		
ありさんのおはなし	リビート	mp		
おばけなんてないさ	リビート		メトロノーム記号	
かたつむり	リビート	f,mf	メトロノーム記号	
素敵なパパ	リビート			
たなばたさま	リビート	mf,cresc.decresc.	メトロノーム記号	
とけいのうた	スラー、プレス	mf,mp,p	メトロノーム記号	
ながぐつマーチ	リビート	アクセント	メトロノーム記号	
あきのうた 9-11月				
大きな栗の木の下で			メトロノーム記号	
こおろぎ	リビート、スタッカート	mf,mp	メトロノーム記号	sotto voce
こぎつね	リビート、プレス	mf,p	Allegretto、メトロノーム記号	
どんぐりころころ	リビート		メトロノーム記号	
とんぼのめがね	リビート	f,mf,mp,cresc.、アクセント	メトロノーム記号	
まっかな秋	リビート	f,mf,mp,cresc.,decresc.	Allegro、メトロノーム記号	
まつぼっくり		mf,p,decresc.	rit.メトロノーム記号	
虫の声	リビート、プレス	f,mf,mp,p,cresc.,decresc.	メトロノーム記号	
もみじ	プレス	cresc.,decresc.	メトロノーム記号	
焼きいもグーチーパー		f,mf,piu f		


































ふゆのうた 12-2月				
嬉しいひなまつり	リピート、プレス	mf,mp,cresc.,decresc.	メトロノーム記号	
おしょうがつ	リピート、プレス	cresc.,decresc.	メトロノーム記号	
思い出のアルバム	リピート、タイ	f,mf,mp,cresc.,decresc.	Andante	
ジングルベル				
たきび	リピート、スラー	mf,p,cresc.,decresc.	メトロノーム記号	
まめまき	リピート	f,mp	メトロノーム記号	
ゆき	リピート	f,mf,decresc.	メトロノーム記号	
ゆきのこぼうず	リピート		メトロノーム記号	

【表7】からわかるように、季節のうたには、演奏法を示す記号として繰り返しのリピート、息継ぎのプレス、タイのほか、スタッカートやスラー、メゾスタッカート、テヌートなどの表現上の指示がある。強弱記号では、f、mf、mp、p、pp、cresc.、decresc.、アクセントがあり、速度記号では、速いものから、Allegro、Allegretto、Andante、「次第に遅く」を意味するrit.、メトロノーム記号による速度指示もある。発想を指示する楽語では、sotto voceが見られた。これらを、『小学校学習指導要領』第3指導計画の作成と内容の取扱い2(6)<sup>45</sup>に児童の学習状況を考慮して取り扱うように示されている「音符、休符、記号や音楽にかかわる用語」と対照してまとめると、【表8】のようになる。

【表8】からわかるように、季節のうたには、『小学校学習指導要領』に示される程度の基礎的な演奏記号、強弱記号、速度記号などの音楽記号はほぼ網羅していた。

以上、子どものうたの中から、手遊びうた、わらべうた、季節のうたを対象に、音域、音程、リズム、音楽記号に着目して分析を行った。次項ではこれらを基に、子どもを教材に使用した保育者のための音楽指導の可能性について考察する。

表8 『小学校学習指導要領』（共通事項）に示された音符、休符、記号と季節のうたに含まれる要素

小学校学習指導要領									
季節のうたに含まれる要素		○	○	○	○		○	○	○
小学校学習指導要領					五線と加線				
季節のうたに含まれる要素	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小学校学習指導要領									
季節のうたに含まれる要素	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小学校学習指導要領									
季節のうたに含まれる要素	○	○	○	○	○	○		○	



#### Ⅳ 保育者のための音楽指導の考察—子どものうたを教材に使った指導

本論では、子どものうたに含まれる音楽要素について、特に音域、音程、リズム、音楽記号に焦点を当てて分析し、保育者養成の音楽指導において子どものうたを教材に、「音楽理論」、「ソルフェージュ」、「実技」を多面的に総合的に指導できる可能性について考察した。

うたに使用されている音域や音程では、手遊びうたと季節のうたにはあまり差がなかったが、わらべうたは他の2つに比べて音域も音程も狭く、半音が含まれていなかった。わらべうたは西洋音楽の音階ではなく、日本の音階や言葉に沿っているので、歌う際の音程が把握しやすく、心理的にも負担がない。この点で、わらべうたは、子どもの声域の発達に配慮したうたのレパートリーとしてだけでなく、保育者志望の学生が自然に基礎的な音程を歌う教材になる。うたを楽しく遊びながら繰り返し歌うことも可能だろう。一方、手遊びうたはわらべうたと異なり、使われている音程は西洋音階に基づいており、音域も広いことから、歌うことは意外に難しいと思われる。しかし、わらべうたと同様に遊びや動きを伴い、歌詞も楽しく親しみやすいことから、難しさを意識せずに練習を積み重ねることができるのではないだろうか。

リズムでは、4分音符、4分休符、8分音符、8分音符と16分音符の組み合わせリズムが、手遊びうたとわらべうた、季節のうたにそれぞれ多く含まれていた。特に手遊びうたは、歌いながら身体活動を伴い、楽しくリズムにのる経験を通して複雑なリズムも身体で感じながら親しみやすい。楽しさを伴う手遊びを通して、これらのリズムを抵抗感なく反復できる。他方で、手遊びうた、わらべうた、季節のうたに頻出する基本リズムについては、最終的には聞き知った子どものうたの文脈を離れても、リズムを把握できる応用力を培うことが求められる。そのためには、リズムを取り出して意識づける練習の併用も必要だろう。

最後に季節のうたには、基礎的な楽譜や音楽記号の知識が含まれており、音楽と乖離せずに、保育者に必要な音楽理論も学べる可能性が有る。また、季節のうたには作曲家が音楽的に妥協せずに芸術性を重視して作曲している曲も含まれ、実際に歌い、弾く活動を通して、音もリズムも音楽的な表現も含めて幅広く学ぶことができることから、保育者のために音楽的価値のあるソルフェージュ教材になり得るだろう。一方で、音程、音階、和音の種類（コードネームを含む）、移調などの音楽理論や、発想記号については、実践的な演習を追加する必要があると思われる。

今回分析したのは60曲ほどの限られたうたであったが、より多くのうたについて、さらにフレーズや形式、終止、和声の他、「ことば」と音楽との関連も視野に入れて研究する必要がある。楽譜を基に音楽理論のみを教えたり、ただ記憶させたりするのではなく、「音楽理論」も「ソルフェージュ」も「実技」も音楽活動と乖離することなく学べるように引き続き考えていきたい。

---

#### 【注】

- 1 吉田直子「階名唱指導上の課題」『京都教育大学教育実践紀要』第13号、pp.99-107、2013年
- 2 吉田直子「階名唱指導上の課題2—幼児教育専攻学生の視唱の現状から—」『京都教育大学教育実践紀要』第15号、pp.95-104、2015年
- 3 吉田直子「保育者養成課程における初心者のリズム読譜指導—「拍」と「フレーズ」を視点に—」（『関西楽理研究』第33号、pp.53-69、2016年

- 4 泉谷千晶「フランスのフォルマシオン・ミュージカルの変遷と改革—1978年以降のソルフェージュ教育の動向—」『青森明の星短期大学研究紀要』第25号、pp.1-29、1999年
- 5 近藤譲監修、田中晴子、他4名共著『〈音楽家の耳〉トレーニングPart 1 (CD付)』、春秋社、2008年
- 6 近藤譲監修、田中晴子、他4名共著『〈音楽家の耳〉トレーニングPart 2 (CD付)』、春秋社、2008年
- 7 長崎結美「保育者養成課程におけるソルフェージュ指導—フォルマシオン・ミュージカルの視点から—」『帯広大谷短期大学紀要』第52号、p.36、2015年
- 8 長崎結美(2015)同上、p.38
- 9 長崎結美(2015)同上、p.37
- 10 長崎結美(2015)同上、p.38
- 11 鈴木恵津子編著『うたっておどっておもちゃ箱 2』、教育芸術社、p.22、2014年
- 12 鈴木みゆき・藪中征代『保育内容「表現」乳幼児の音楽』、樹林房、p.92、2004年
- 13 坂田おさむ『保育で使えるこどものうた230曲!』株式会社リットーミュージック、p.30、2017年
- 14 坂田おさむ、(2017)同上、p.156
- 15 小林美実『こどものうた200』チャイルド社、p.31、1975年
- 16 鈴木恵津子編著『うたっておどっておもちゃ箱 1』、教育芸術社、p.22、2014年
- 17 坂田おさむ『保育で使えるこどものうた230曲!』株式会社リットーミュージック、p.260、2017年
- 18 鈴木恵津子編著『うたっておどっておもちゃ箱 1』教育芸術社、p.28、2014年
- 19 小林美実(1975) 同上、p.48
- 20 小林美実『続こどものうた200』チャイルド社、p.32、1996年
- 21 小林美実(1996) 同上、p.64
- 22 鈴木恵津子編著『うたっておどっておもちゃ箱 2』、教育芸術社、p.48、2014年
- 23 鈴木恵津子編著(2014) 同上、p.24
- 24 鈴木恵津子編著(2014) 同上、p.52
- 25 鈴木恵津子編著(2014) 同上、p.18
- 26 小林美実(1975) 同上、p.30
- 27 小林美実(1996) 同上、p.116
- 28 小林美実(1975) 同上、p.18
- 29 鈴木みゆき・藪中征代(2004) 同上、p.77
- 30 小林美実(1975) 同上、p.23
- 31 井口太『新・幼児の音楽教育』朝日出版社、p.194、2014年
- 32 井口太(2014) 同上、p.193
- 33 井口太(2014) 同上、p.195
- 34 小林美実(1975) 同上、p.16
- 35 鈴木恵津子編著『うたっておどっておもちゃ箱 2』、教育芸術社、p.88、2014年
- 36 小林美実(1975) 同上、p.69
- 37 小林美実(1975) 同上、p.78
- 38 小林美実(1975) 同上、p.119
- 39 小林美実(1975) 同上、p.122
- 40 小林美実(1975) 同上、p.88
- 41 小林美実(1975) 同上、p.91
- 42 足立広美「幼児〈子ども〉の歌に関する一考察—幼児〈子ども〉の歌の音域をめぐって—」『創価大学教育各論集』第64号、p.100、2013年
- 43 足立広美(2013)同上、p.105
- 44 吉田直子編著『なんのうたかな? こどものうた50曲選』ファウエム・ミュージック・コーポレーション、pp.77-82、2020年改訂版
- 45 国立教育政策研究所学習指導要領データベース<https://www.nier.go.jp/guideline/h28e/chap2-6.htm>(2020.8.8閲覧)